

序 章 「かつしか観光プラン」の概要

1. 本プランの背景と目的

昨今、観光による地域づくりが国や地方自治体の重要なテーマとして注目されています。平成 15 年度からは国を挙げて「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が展開されており、また首都・東京でも多くの区市町村において観光振興プランが策定され、具体的な取り組みが始まっています。

葛飾区内にも、様々な魅力ある地域資源が存在しており、その活用も積極的に行われているところです。観光振興は、まちの賑わいを創出する有効な手段の一つであり、今後の観光まちづくりの目標像を明らかにしたうえで、それに向けた一層の取り組みが求められています。

このような状況の下、本プランは現在の状況を踏まえ、将来葛飾区が目指すべき姿と、それを実現するための施策の方向性および観光振興プロジェクトについてまとめたものです。

なお、本プランでは、今後の取り組みによって新たな魅力を付ける葛飾区を、さらに親しみやすく、伸びやかに活力を持ちながら成長を続けるまちとして捉え、「かつしか」と表記しています。

2. 本プランの位置づけ

- (1) 本プランは、葛飾区基本計画における「区民と創る元気なかつしか」の実現のための戦略「賑わい」の視点から政策を展開するための計画です。
- (2) 本プランは、観光の振興を通じて、葛飾区のまちの魅力の創出と活性化を進めるための基本的方向性を明らかにするとともに、取り組むべき戦略を明確にした長期計画です。

3. プラン策定の方法

観光分野に関する有識者や葛飾区内外の観光関連組織、民間事業者等から構成される「かつしかの魅力プロデュース会議」と、3つのワーキンググループにおける検討のほか、各種統計データの分析や現地調査等を踏まえて、本プランを策定しました。

「かつしかの魅力プロデュース会議」では、区内の観光・商工・文化・農業等の関係委員を中心に、すでに知名度の高い観光資源に加えて、今後は各地域に眠っている地域資源に光を当てていくことが重要との指摘が多く挙げられるとともに、区外の委員からは、葛飾区ならではの魅力をさらに強く発信していくよう求める発言が出されました。

3つのワーキンググループのうち、「プロフェッショナルグループ」は、区外の旅行会社や鉄道・バス会社、観光関連組織をメンバーとして、より客観的に葛飾区の魅力と旅行商品化に向けた議論を行いました。

「ウェルカムグループ」は、地元の観光関連の民間事業者やボランティアガイド、農業従事者の方々をメンバーとし、来訪者を迎えるにあたって取り組むべきこと等について話し合いました。

立教大学と杏林大学の学生で取り組んだ「トライアルグループ」は、観光振興に関心の高い区職員とともに、歴史や文化、ウォーキング・サイクリング、昭和レトロ、外国人旅行者の誘致、住民の視点といったテーマでグループに分かれてフィールドワークと議論を行い、本プランへ多くの提案を行いました。